

<自己評価1回目> ※黄色のセルをすべて記入してください。

項番	1	総事業 項目数	1
----	---	------------	---

整理番号	2024P-	077	補助事業者名	JHP・学校をつくる会	事業項目名	国際交流の推進活動及び国際的な舞台で活躍できる人材の育成事業
------	--------	-----	--------	-------------	-------	--------------------------------

別紙 JKA補助事業 2024年度 事前計画／自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価

作成日	2025	年	3	月	31	日	作成者	渡辺悠斗
-----	------	---	---	---	----	---	-----	------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画／自己評価書(3/5 ①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。					
(1) 受益者 (二一ス)	1) 直接受益者 現地活動校の対象諸学校生徒374名及び教員9名の活動参加が得られた。事業参加者(日本人):25名(含むJHP1名)※渡航前日欠席者1名除く 2) 間接受益者 参加者家族、学校関係者、地域住民 活動終了後、当会会員や支援者約1,500名に活動内容を記載した会報を発行した。 3) ニーズ カンボジアの教育環境改善と衛生理解促進。子どもたちの教育環境、衛生環境の改善が図れた。	採点	4		
(2) 事業内容	事業計画に基づいて、国内外の活動を実施することができた。	採点	4		
事業の 新規性 または 継続の 必要性	参加者がカンボジアに活動拠点をもちつ弊会が実施している教育支援活動の一端に直接関わる事ができた。また、対象校の学校環境、衛生環境が整備され、教えやすく学びやすい環境を提供できた。さらに、「国際相互理解の継続的普及」の観点において、高校生や大学生、社会人がそれぞれの経験に応じてカンボジアの理解を深め、ボランティア体験を通して自らの成長に繋がる活動となった。また、帰国後にその経験をホームページや会報、報告会等で伝えていくことで、社会貢献活動に目を向ける人が増える可能性を確信した。他団体が主催する海外ボランティア研修は、高額かつ現地集合解散等、海外未経験者や経済的に豊かでない学生にとって参加のハードルが高い。JHPが主催する本事業は、補助を受けていること、JHPスタッフが成田集合から解散まですべて同行することなど、希望者に取って安心して参加しやすい事業である。そのため、当会関係者の親族や知り合い、複数回参加者がいる。若者への貴重な経験の場を今後とも提供していきたい。	採点	4		
事業の 発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)	採点			
実施計 画 ・ 体制	1) 実施場所: 東京都にある当会事務所及び港区の公共施設 カンボジア王国プノンペン市の当会が支援する学校と現地NGO団体、ブランコと手洗い場を支援したプレイベン州スキア小学校 2) 実施体制: 事業推進者: 渡辺(当会東京事務所勤務、主に募集/勉強会/派遣手配/報告会を含む全体運営担当) 眞栄城(当会東京事務所勤務、募集チーフ作成担当)、派遣候補者選考: 渡辺、野村、辰川、水野、北風の当会日本人職員計5名 海外活動: 辰川、水野、バン・ラス(当会プノンペン事務所) 現地活動校とスケジュール調整、現地見積取得、車両手配、資材手配、作業コーディネート、生活・安全指導、全体コーディネート補佐	採点	4		
(3) 達成 目標	【達成値】 ① 参加者満足度 100% ② 教員及び生徒満足 度 100% ③ 約30名	【達成状況】 ① 125% ② 125% ③ 100%	【具体的内容】 ① 参加者24名中14名からアンケート結果を回収した。参加者個人ごとの目標設定は応募用紙や面接で確認し、活動期間中毎日全員が提出したレポートの中では随所に変化が見られ、目標達成を確認することができた。 ② 現地活動校の教員9名、生徒374名に対するアンケートを実施、ブランコと手洗い場に関する満足度について全員から「満足」という回答が得られ、目標達成を確認することができた。 ③ 11月24日に実施した活動報告会では、報告者や当会役員、来場者、オンライン含む約30名が参加した。	採点	5
	【達成値】 ① 活動参加前と比較し、向上した。 ② ブランコと手洗い場の毎日の使用を確認済 ③ 活動報告会アンケートで次回希望を確認済	【達成状況】 ① 100% ② 100% ③ 100%	【具体的内容】 ① 活動前に応募用紙や面接を通して志望動機、活動を通して学びたいこと、得たいことが確認できた。活動中のレポートを通して、達成度の確認や新たな発見等の振り返りの機会を設けた。参加後のアンケートを通して、意識の変化、得たもの、達成できたこと、挑戦したいことなどを振り返ることができた。計2回の事前勉強会や現地プノンペンでの当会事務所スタッフの講義を通して、現地の事情や支援の必要性を理解できた。 ② 現地活動校には現地駐在員による視察とアンケート依頼を実施した。遊具ができた後の生徒達の変化及び衛生教育ワークショップを通しての生徒達の変化を確認した。 ③ 帰国後アンケートで複数の参加者から次回以降も参加したいという主旨の記述が見られた。	採点	4
(4) 情報 発信	【達成値】 ① 成果発表のための報告会を開催した。 ② 弊会のHPやSNS等を活用しアクセス数やいいねを増やす。	【達成状況】 ① 100% ② 100%	【具体的内容】 ① 活動記録集は作成していないが、直接受益者である事業参加者に対しては、報告会に向けての準備を通して、活動の結果を自ら振り返る機会を設けた。 ② 弊会HPやSNSを通して、活動に参加していない人々への周知活動をして、支援者、関係者、事業参加者の大学、他NPOへ理解を深めてもらった。	採点	4
	【達成値】 ① 成果発表のための報告会を開催した。 ② 弊会のHPやSNS等を活用しアクセス数やいいねを増やす。	【達成状況】 ① 100% ② 100%	【具体的内容】 ① 参加者募集の段階で、HPやニューズレター、メルマガ等に情報を随時掲載した。参加者には国内勉強会にて周知した。また、支援対象となる学校へのブランコ、手洗い場にはJKAのロゴマーク付きの支援者プレートを取り付けた。 ② 海外活動終了後には、弊会HP、報告会などを通して、会員・支援者のみならず、広く世間一般に情報発信を行った。	採点	4
(5) 自己評価の 体制	参加者アンケートに基づくスタッフ間での振り返りミーティング(渡辺・辰川・水野・北風)や現地活動校へのアンケート依頼と結果とりまとめ(水野)、報告会での参加者アンケート結果に基づく振り返りミーティング(渡辺・次年度本事業担当の和田)、自己評価ミーティング(渡辺・水野)を実施した。自己評価結果として、当会HPにアンケート結果や内部評価の情報を掲載した。	採点	3		

(b) 総合評価

総合 評価点	4
-----------	---

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。

(1) 事前計画 (2/5)記載の「補助 事業の直接的な 目的」を踏ま え、事業全 体についての 意見・所感	参加者はカンボジア現地で直接活動したからこそ、都心と地域の格差などをはじめ多くのことを学べた。活動期間中、隊員は毎日小グループでの感想共有やレポート提出を通して日々の振り返りを実施した。ブランコ設置に汗を流しただけではなく、子どもたちとの触れ合いや地域住民の住居訪問等、座学では決して学べない場の提供が、本補助事業の価値と考える。隊員はここで学んだことを広く伝えていくと語り、波及効果も大きい。活動を通して現地小学生にも遊び場が増えたり、手洗いの大切さを学んだり、双方向で受益者を増やすことができた。海外活動におけるリスクが常にあることを想定し、安全管理を徹底することにより、本目的の達成に向けたプログラムを継続、継承することは当会の社会的役割であると考える。
(2) 優れている 点・課題、改善 すべき点	優れている点 ① 慣れないボランティア作業、初めての海外経験者など不安を抱える参加者も、JHPが安全を確保しながら指導していくことで成長できる。 ② 汗をかく活動のブランコ設置、現地NPOで活動者から直接学ぶ、子ども達と直接交流するなどは本補助事業の強みと考える。 課題/改善点 ③ 現地ではボランティア活動、子ども達との交流など体を使った活動を柱としたが、NPO法人での共同活動などを取り入れて学びの機会も増やしていきたい。
(3) その他、ア ピールしたい 点、是非知っ てほしい点	① 航空機運賃、交通費、滞在費、滞在中の食事、活動資材を含めて、他団体に比べて格段に参加しやすい費用であり、この費用感は、特に海外でボランティアを希望する一方で経済事情により諦めざるを得ない学生にとって大変魅力的である。実際に参加した複数の学生からは、この参加費用でこのクオリティには驚いた、と言う喜びの声を聞いた。また、全行程をJHP職員が同行・指導・宿泊を行うので安心して参加できる。 ② 事前勉強会と活動報告会を実施することで、感じたことや学んだことを再度認識して理解が深まるとともに、一定期間活動を共にすることで隊員同士の絆が深まる。 ③ 補助事業を活動前や活動中、活動後にホームページやJHPのSNSで発信するため、補助事業を広く知ってもらうことができる。 ④ 1993年から始まったカンボジアボランティア派遣活動は長い歴史をもち、各回参加者同士のネットワークは今でも健在で、人脈の拡大に貢献している。

【事業費】